

特濃！ 廃道あるき 第二六回

# う っ 宇津峠 初代車道 (三島新道)

by 平沼義之 (ヨツキれん)

位置

山形県飯豊町～小国町

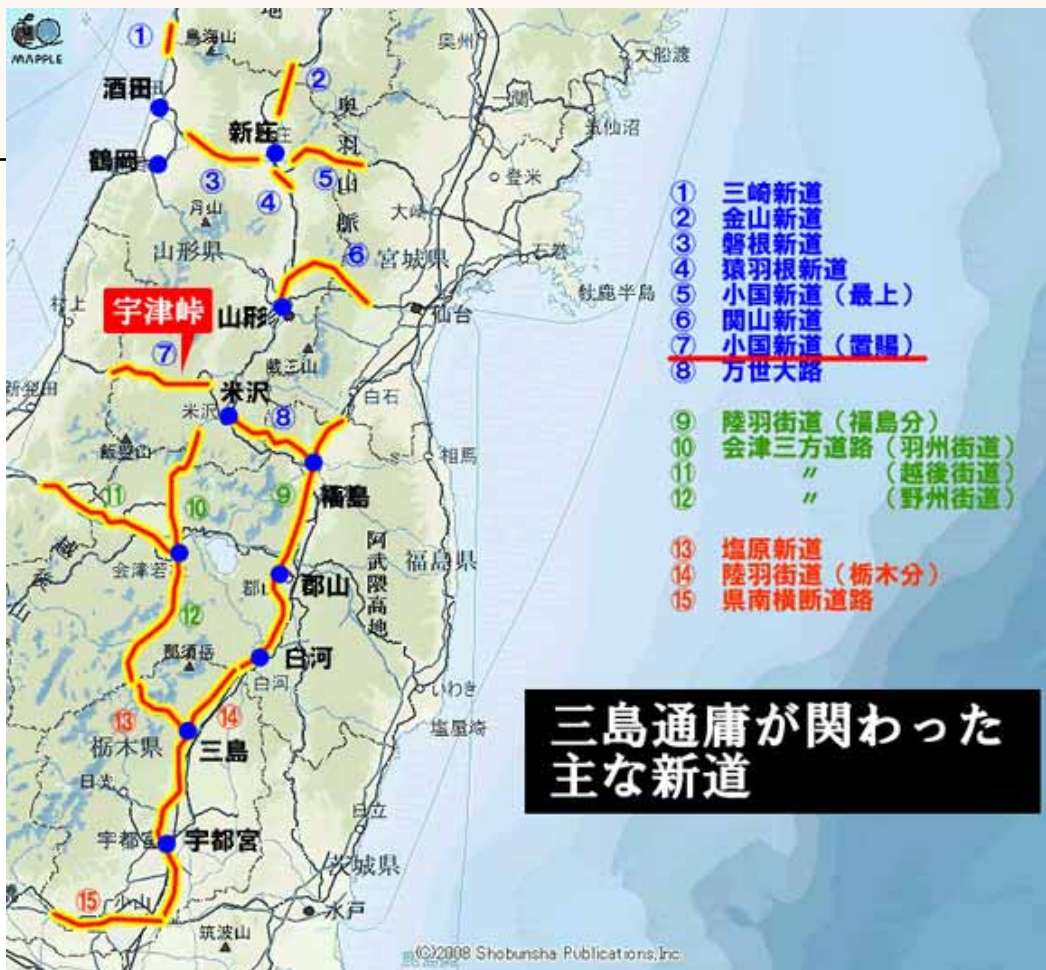
探索日

2009年5月10日

# 宇津峠 初代車道 (三島新道)

## 導入

◆ みしまみちつね  
**三島通庸を追いかける旅の二巡目で**



庸の最後の道路事業【※2】 攻略完了によって、一応の区切りとした。だがそれで彼の作った道の全てを辿り終えた訳ではなかったし、一度終えた道にも変化は確実に起きる。私はいま、三島通庸という旅の二巡目にいる。

中でも昨年の5月、生涯3度目の訪問となった山形県は「宇津峠」においては、極めて衝撃的な体験をした。

幕末から明治の激動を「鬼県令」「土木県令」の二つ名で駆け抜けた三島通庸。その辣腕が生み出した山形、福島、栃木の三県に点在する多くの明治道の、特に廃道となっているものを辿り歩こうという私の旅は、平成15年の万世大路（通庸の最初の大規模な道路事業【※1】）探索に始まり、20年夏の塩原新道（通

## 宇津峠 初代車道 (三島新道)

### ◆ 東北有数の廃道累積地、宇津峠

その衝撃体験を告白する前に、宇津峠についてごく簡単に説明しておきたい。

地理や地誌から見た宇津峠とは、飯豊山地と朝日山地を繋ぐ山脈が最上水系と荒川水系に挟まれて最も細くなった部分に位置する天与の峠であって、海拔は490mある。行政区域としては山形県の飯豊町と小国町を隔てているものだ。

そして、オブローダー的視点から見た宇津峠は、幾世代の旧道死骸が累々と重なりあう、東北有数の廃道累積地である。手前味噌で恐縮だが、以前「[廃道本](#)」(ISBN-10: 440803004X) に宇津峠を取り上げた私は、次のように書いた。

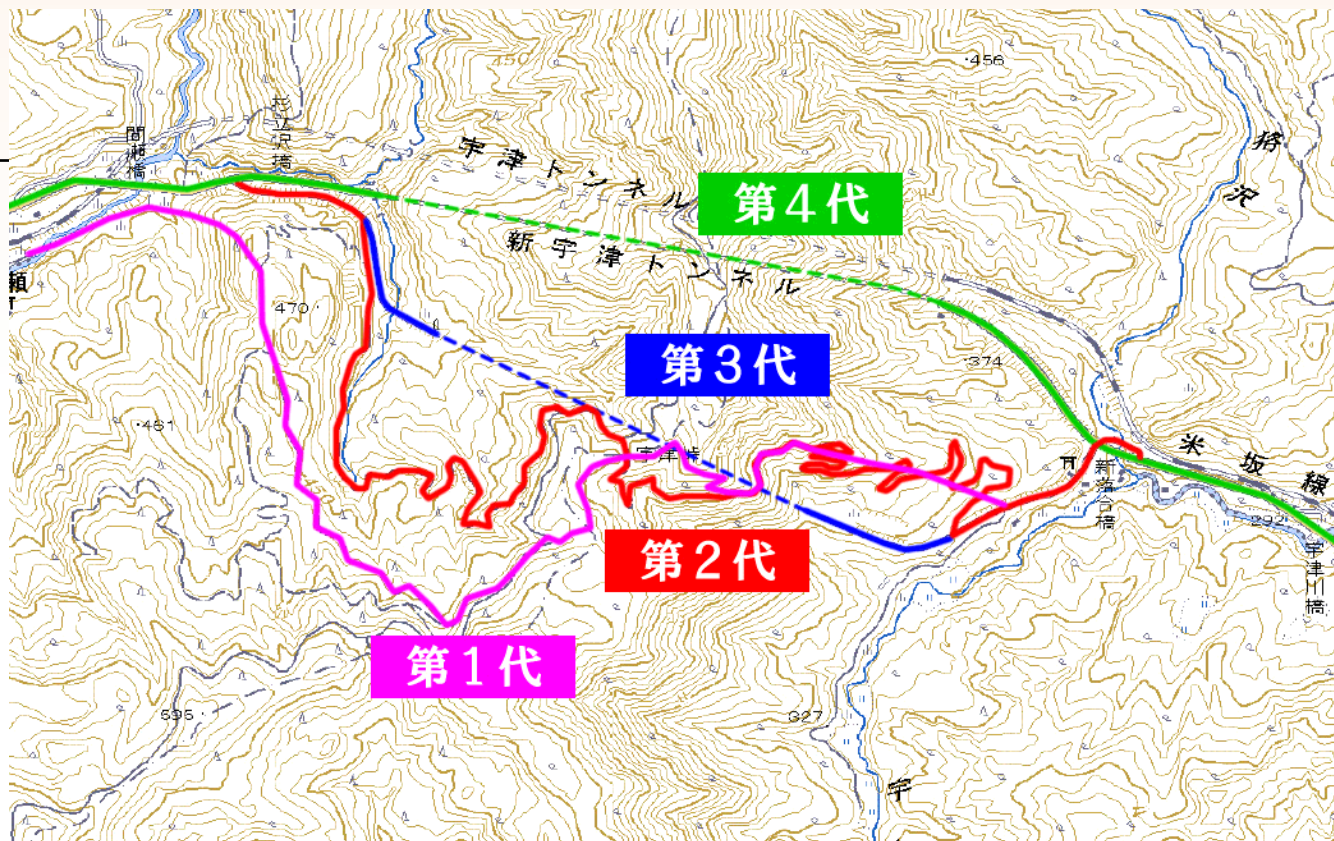
この峠に車両交通の先鞭を付けたのは三島通庸である。彼は山形県令時代の明治13年に「小国新道」を計画し、彼が福島県令に転任した後の明治19年に開通した。

(廃道本 p.32)

この「宇津峠の車道開削は三島通庸による」という事は広く知られているし、もちろん事実である。



## 宇津峠 初代車道 (三島新道)



そしてこの明治の「三島新道」を「第二世代」として、それ以前には天保年間に上杉家が整備した「越後街道」があった。これは全線に13もの峠があったことから、十三峠街道とも呼ばれている。一方の「第三世代」は、昭和42年に待望の冬期通行可能な道路として開通した初代「宇津峠トンネル」であり、これが手狭となって平成4年に新築された「新宇津峠トンネル」が「第四世代」の現道ということになる。

私が最初に宇津峠を訪れて「第二世代」と「第三世代」をレポートした平成16年当時、現道以外は全て廃道だった。それが19年の再訪では、「第一」と「第二」の道が地元有志の手で刈り払いされ、簡単な道しるべも設置され始めているのを見た。改めて調べてみたくなったが、この時はテレビの取材を受けている最中だったので、すぐに立ち去らねばならなかった。

そして今回ようやく3度目の訪問を果たしてみると、さらに新しい案内板が増えていたのだが、その内容は私を驚愕させた。



## 本編（現地踏査）： （一）序章

今回計画した三島通庸の廃道を辿る旅の初日（平成21年5月10日）は、山形と仙台を結ぶ関山新道（関山峠）の再訪を行った。そしてこれが早めに終わったので、午後は明日の調査予定地である会津地方へ向かって車で移動していたのだが、途中で宇津峠の刈り払いのことを思い出し、少し寄り道することにした。

宇津峠の米沢側登り口である落合口には、午後4時直前に着いた。もとより本格的に歩くつもりはないので、特に急ぐこともなかった。

落合に着いてまず向かったのは「第三世代」の道、廃止された宇津トンネル（全長915m）の坑口だ。ここは個人的にとっても思い入れの深い場所で、電光掲示板を含む近代的な車道が捨てられるに任された光景は、自分の廃道憧憬の原点である。

まだ廃止されて日が浅いのと、特に封鎖されていないせいで坑





## 宇津峠 初代車道 (三島新道)

口の前まで楽に車で行くことが出来る。なお、ここを最初に訪問した時の模様は、「山さ行がねが」に【道路レポ・宇津峠】として書いていたので参照されたい。

宇津トンネルに目立った変化がないことを確かめてから、来た道に戻る途中の宇津明神（神社）の近くで、前回見なかった新しい案内看板を発見した。



この2枚の新設案内板が、とんでもない事態に私を巻き込む元凶となった…。



左の山手に見えるのが宇津明神で、奥の立派な橋は旧道を跨ぐ現国道だ。

# 宇津峠 初代車道 (三島新道)

## (二) 青天の霹靂

◇16:01 落合口の案内看板 【地図表示】

2枚の案内板の片方は地図、片方は解説だった。自分が以前苦  
勞して乗り越えた三島の新道がどのように描かれているのか、い  
つちよお手並み拝見ぐらいの気持ちで、まず地図の方から覗いて  
みると…。



ふむふむ…。

地図は、近年地  
元の手で整備され  
て遊歩道となった  
宇津峠の「旧越後  
街道」を案内する  
ものだった。この  
落合口から宇津峠  
までの街道筋が赤  
い線で目立つよう  
に描かれ、途中に  
幾つかの名所を案  
内している。途中  
で枝分かれして峠  
のそばで再び合わ  
さっている茶色の  
線には、「旧車道」  
という注記がある。

## 宇津峠 初代車道 (三島新道)

これが三島の「小国新道」のことだろう。旧越後街道とは（少なくとも遊歩道のコースとしては）一部が重なり合っているようだ。

以前「山行が」の読者さんから教えられたが、いまは旧車道も旧越後街道と一緒に刈払われ、私がかつてしたような藪漕ぎをしなくても踏破できるとのことだ。これは別に「自分の後に道が出来た」訳では無いのだが、先陣を切ることが出来たというオブローダー的な優越感に満足しつつ、いま一度地図の隅々まで眺めていると…。

ん？

なんだこれ？



- 遊歩道コース
- 標柱「宇津峠」
- 林道
- 主な名所

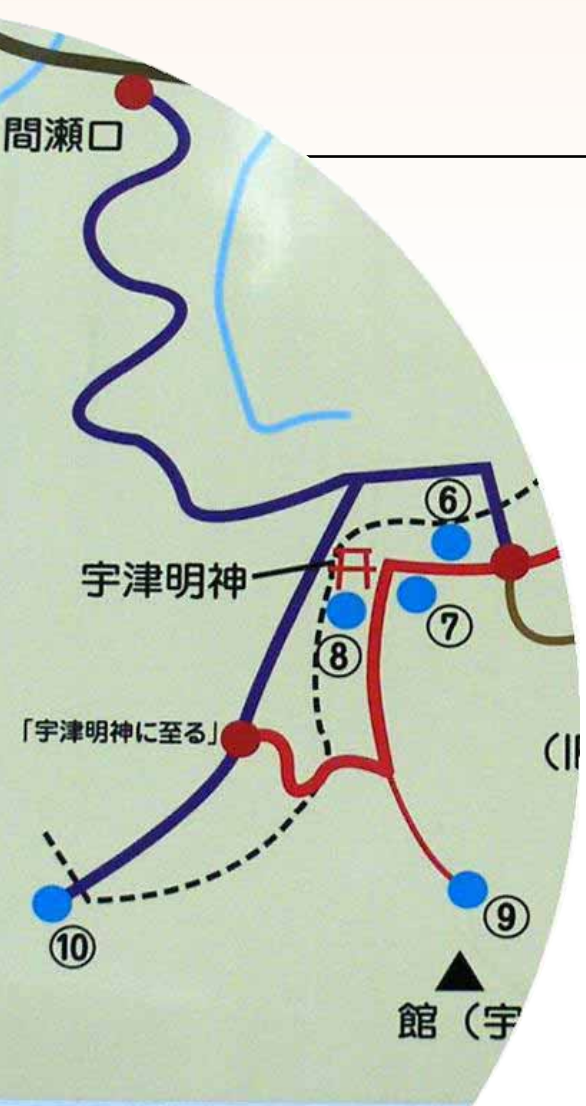
- ① 切腹松跡
- ② 大比戸 (なだれ難所)
- ③ 良寛漢詩「米沢道中」比定地
- ④ イザベラバード遠望地
- ⑤ はだか杉 (巨木)
- ⑥ 馬頭観世音碑
- ⑦ 介茶屋跡
- ⑧ 道普請供養塔
- ⑨ 馬洗い場
- ⑩ 三島新道切割 (清明口)

間瀬口

宇津明神

「宇津明神に至る」

館 (宇



宇津峠 初代車道 (三島新道)

なにこねて？

え？

## 宇津峠 初代車道 (三島新道)

### 三島新道切割？

それは南の端っこの方の行き止まりみたいなところにポツンと示されているが、どうゆうこと？

三島新道切割（＝堀割）といえは、この案内板でいうところの「旧車道」の峠のことじゃないの？

「山行が」ではもちろんのこと、『廃道本』でもそう書いた。テレビ（NHK『熱中時間』）の取材でもはっきりそう案内した。

え、え？

これは独論じゃないんだよ。現に『東北の道路今昔（建設省）』や『高橋由一と三島通庸（西那須野町）』など、三島通庸研究の著名な参考書も全て、私と同じ論を採っている。「清明（せいめい？）口」なんて聞いたこと無いよ。

え？ え？ え？

三島新道は、どこかで2本に分かれていたってこと？



おちつけおちつけ！ 落ち着け自分！

そうだ、隣にある解説板を読んでみれば、案内板の誤りを糺せ  
るんじゃないのか？

ぶつちやけ、「手ノ子地区協議会」とやらが立てた案内板を即座  
に信じる訳にはいかない。あまりにも従来の説と違いすぎるし、  
私は個人的に、それを他人様に案内し過ぎた過去がある…！

## 宇津峠

宇津峠は米沢と越後を結ぶ「越後米沢街道・十三峠」の  
一つで、飯豊町手ノ子と小国町沼沢を結ぶ峠である。  
十三の峠の中でもっとも急峻で、雪崩の多い難所と  
して知られた。十三峠は大永元年（一五二二）  
伊達植宗による大里峠の新道開削に始まり、それ以  
前は別のルートが利用された。上杉米沢藩の時代と  
なり宇津峠は慶安年中（一六四八〜五二）から馬足  
が可能になったと伝えられる。  
峠の頂上に落合の鎮守である諏訪神社の跡地（宇津  
明神碑建立）及び介茶屋跡があるほか、発掘された  
天保一〇年（一八三九）の馬頭観世音碑・弘化二年  
（一八四五）の道普請供養塔があり、共に飯豊町文  
化財に指定されている。明治に入ってから車道開削  
が進められ、明治二七年（一八九四）に九十九折の  
車道が完成し、昭和四二年（一九六七）に旧宇津ト  
ンネルが完成するまで利用された。

二〇〇八年一〇月

飯豊町手ノ子地区協議会

### （解説板内容を一部抜粋）

∴明治に入ってから車  
道開削が進められ、明治  
二七年（一八九四）に九  
十九折りの車道が完成  
し、昭和四二（一九六七）  
に旧宇津トンネルが完成  
するまで利用された。

特濃！ 廃道あるき 第二六回

## 宇津峠 初代車道 (三島新道)

---



## 宇津峠 初代車道 (三島新道)

待ってくれー。置いていかないでくれー。

明治27年に九十九折りの車道が完成した？ 九十九折りということ、案内板の「旧車道」の事だよな。あれは凄い九十九折りの道だ。

でもでも…

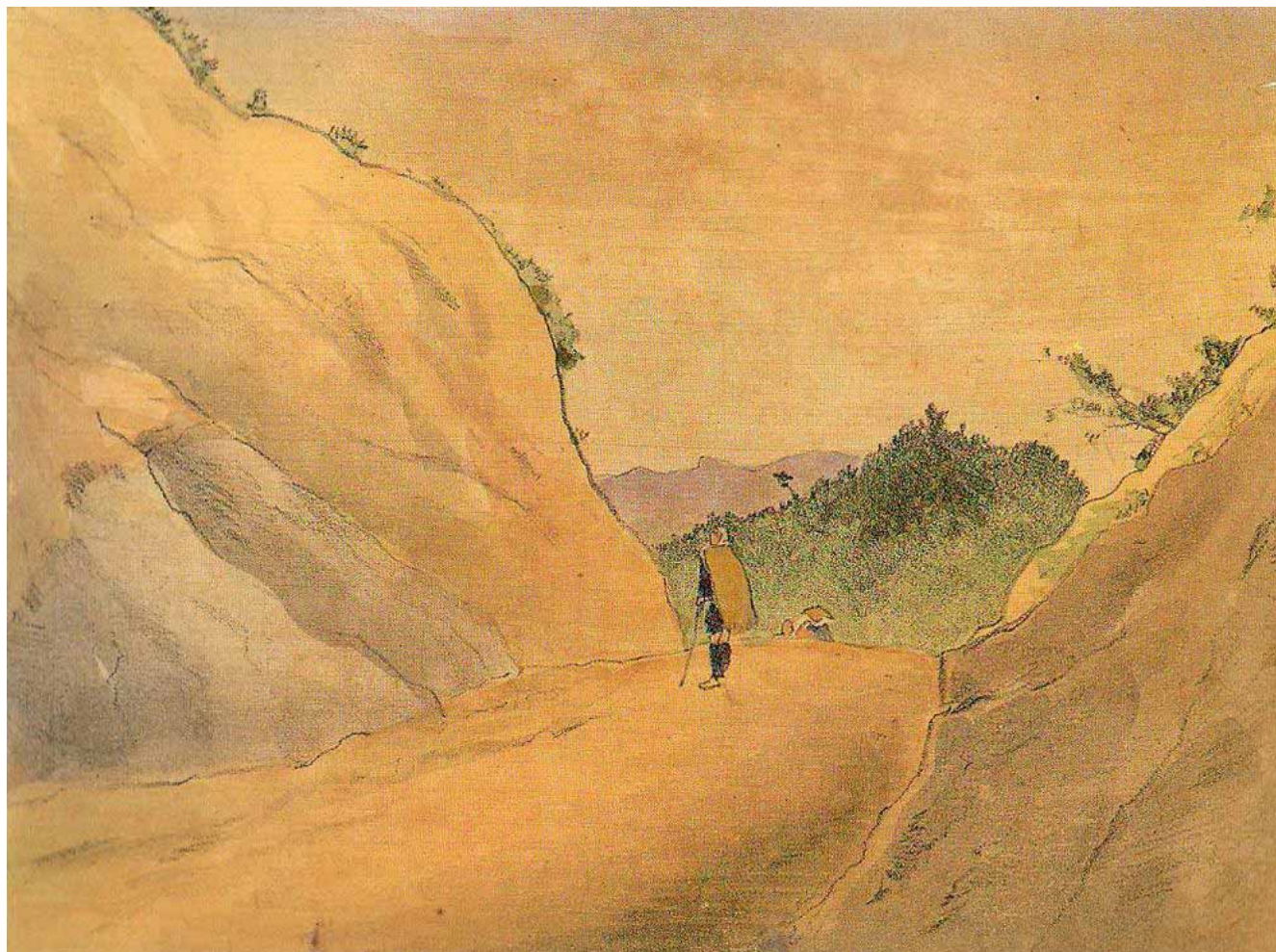


## 宇津峠 初代車道 (三島新道)

三島好きならこの絵に見覚えあるのではないだろうか。これは三島の委嘱を受けて各地の新道を描いた高橋由一ゆいちの石版画で、これを作るための写生旅行は明治17年の秋に行われたことがはっきりしている。そこで開通直後の宇津峠をはっきりと描いている。

解説板はまさか、明治27年と17年を誤記しているのか？

いやしかし……。



『三島道路完成記念帖 (高橋由一)』より「宇都峠切り割り之図」。(『東北の道路今昔』より転載)



### (三) 行って見るべし

案内板と解説板に揃って騙されたような気持ちだが、これ以上の情報をここにおいて得ることは出来ない。実際に「三島新道切割（清明口）」という場所に行ってみよう。

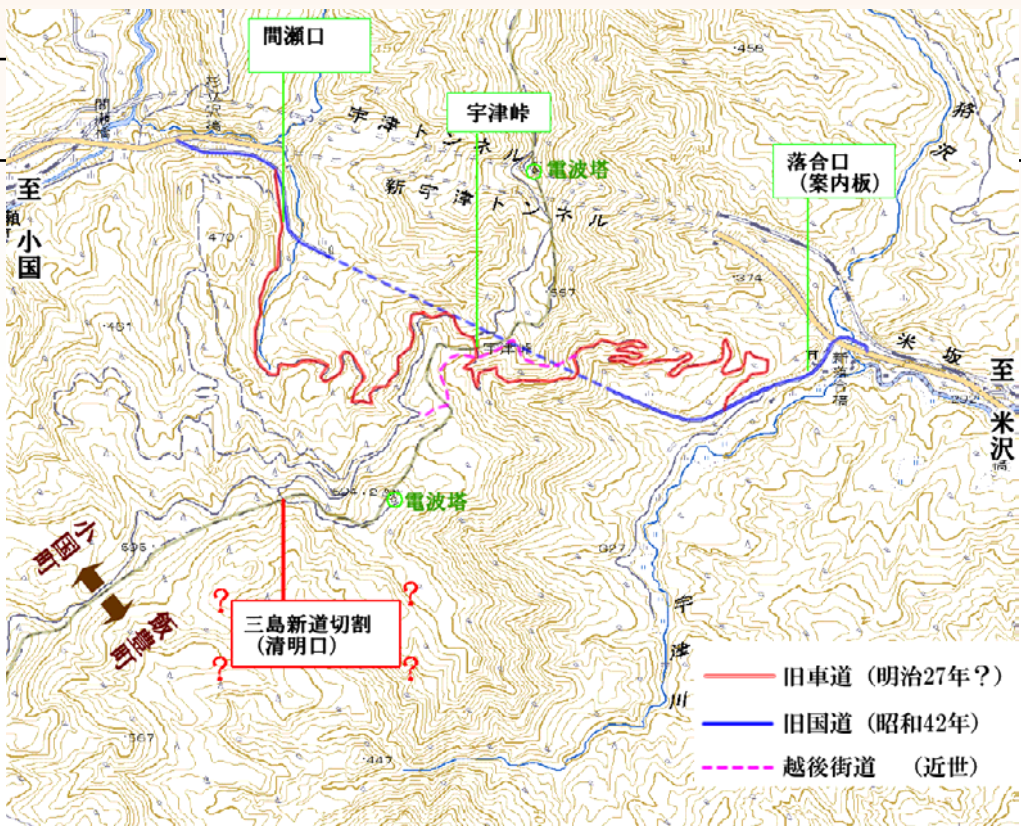
私の目が節穴でない限り、実際にモノを目にすれば自ずと明らかになるはず。私たちと看板のどちらが正しいかということが。

だがその前に、あのデフォルメされた案内板の地図と手許の地形図を対照させる必要がある。ここで間違えれば、何が何だか分からない。

ということ、慎重に对照を行った結果、疑わしい地点は1箇所に絞られた。

従来の宇津峠の切り通し【写真】の南西およそ800m、海拔550mの地点にも鞍部が存在していたのだ。ここが怪しい。

ただ、そこを通る道も描かれてはいるものの、それは電波塔に至る行き止まりの道で、辺りに「清明」という地名も見あたらない。



それでも間瀬側から電波塔までは車道が通じているようなので、簡単に行く事が出来そうだ。

行ってみよう！





旧々道から見下ろす間瀬側の旧道の様子。

全長1335mの新宇津トンネルを飛ばすだけの現代の峠越えは、あつという間だ。トンネルを出てすぐ後方に分岐する旧道へ入り、すぐまた旧々道へと右折する。今度は「沼沢公民館」が設置した案内板と解説板が並んでいた。これも前回来たときは無かった。



こちらの案内板に「三島新道切割」は描かれていないし、怪しい道も無い。いたって「優等生」である。ただ、解説板の文章は落合口のものとはほとんど一緒だ。



## 宇津峠 初代車道 (三島新道)



間瀬口（案内板）から1.7 kmの地点にご覧の分岐地点がある。過去2回来たときは全くといっていいほど意識しないで通り過ぎていた分岐だ。直進すれば僅か300mで峠の切り通し（【写真】）なのだが、今回は初めてここを右折することになる。

◇16:28

林道分岐地点

【地図表示】



砂利道の旧々道をしばらく登る。この道の勾配は比較的緩やかだが、由来はやはり三島新道である。これは「清明口」云々とは関係なく確定している。



## 宇津峠 初代車道 (三島新道)



まだまだ車で進めそうだったが、これから先は初めての道ということで、自転車を使うことにした。

自転車は、私の「三島センサー」の感度を上げるための策でもある。もしこれから走る道が本当に「三島新道」

の一部であるなら、明治馬車道の独特な緩やかさを感じするはずである。それはアクセル越しでは感じがたい微妙な感覚なのだ。

出発進行！

うおっ！ これは？！





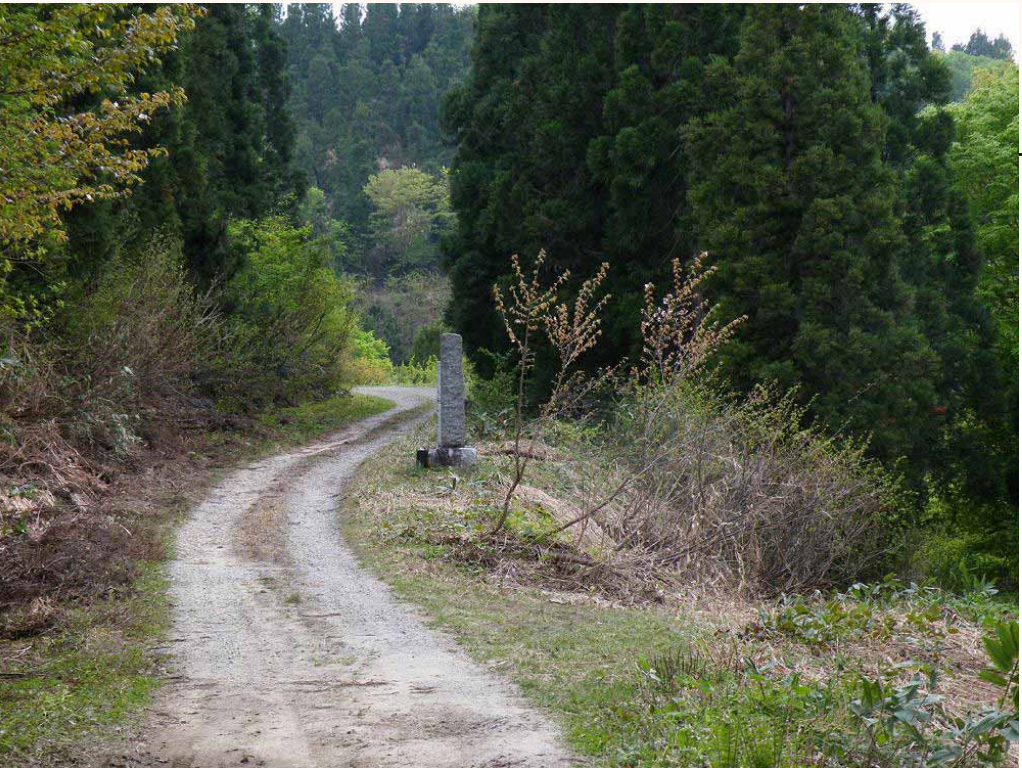
山奥の林道らしからぬ、妙にゆつたりとした道幅と緩い勾配。これは、紛れもない明治馬車道の匂いじゃないか…？

い、いやいや。

紛れと言うこともある。このくらいの際かの距離で判断できる物じゃないのだヨ、キミ。

道幅も緩やかさも、なお揺らぎ無く続いていた。砂利道であることから、重要な林道として改修拡張されたとは思えないのだが。

しばらく行くと、まだ新しい石碑が路傍に建っていた。道の由来に関する物かと色めきだったが、地元の森林組合長の顕彰碑だった。





## 宇津峠 初代車道 (三島新道)



◇16:37

作業道分岐地点

【地図表示】

再び分岐が現れたが、両者の道幅は違いすぎる。右の作業道くらいが普通の林道の幅だ。直進の本線はおそらく2間（約3.6m）ある。そして、記録に残る小国新道の幅員もまた2間なのである…。

分岐の後はややきつい登り坂となるが、長くはない。途中で振り返ると、尾根上という自身の立ち位置が鮮明となる眺めだった。

しかし、これが本当に峠越えのための道だとすると、やや不可解な線形と言わねばならない。容易に辿り着ける最低鞍部の直前まで一度行きな



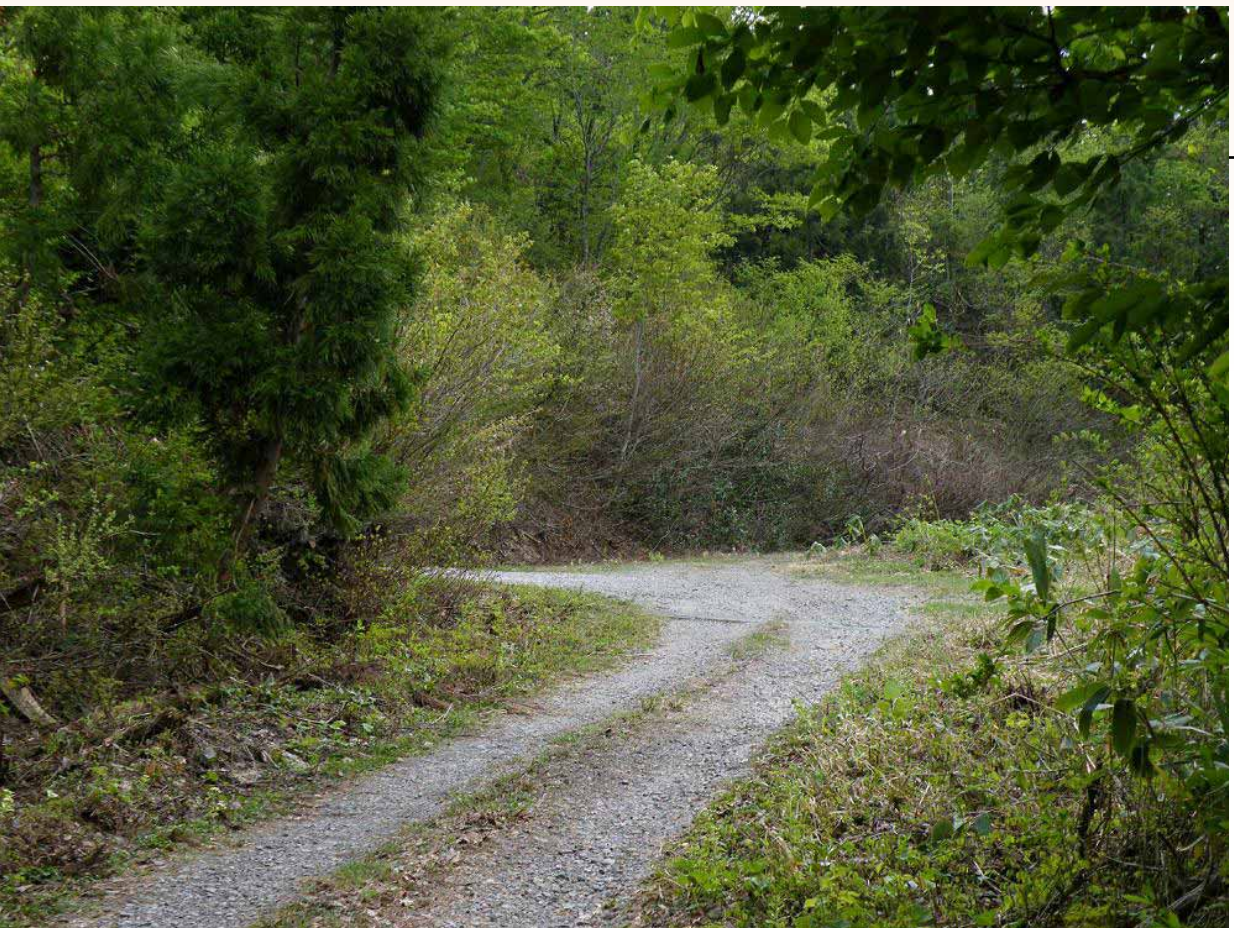
がら、それを蹴って別のより高い鞍部を探すように南下しているのだ。こういう迂回の必要な理由が、なにかあっただろうか…。

実は、あつた気がする…（後述）。

うおっ！

前方の道は突如左にカーブしている。この方向には、目指す鞍部があるに違いない！ 早くも来たか！

なお、本当は尾根伝いの林道の本線は直進するのだが、轍の大半が左折しているため道自体が左折しているように見えた。これは意外にも三島新道が現役ということなのか?!



ドキドキしながら、カーブを曲がると…



## 宇津峠 初代車道 (三島新道)

◇16:40 三島新道切割

【[地図表示](#)】



こいつは、ガチだ…。

そこには、本当に切り通しがあっってしまった…。



## 宇津峠 初代車道 (三島新道)

ただ予想外だったのは、沢山の轍の行き先が、その明瞭な切り通しではなかったということだ。

轍の道は、切り通しの「肩」を借りるようにして、向こう側へと登り抜けていた。それは地形図にも描かれた電波塔（稜線上に2箇所所有るので「電波塔（南）」と表現する）へ登る道だ。

肝心要の「三島新道切割（清明口）」に、新しい轍は見られなかった。









## 宇津峠 初代車道 (三島新道)

「平成20年10月建立」の標柱が案内する切り通しは、想像以上に鮮明だった。そして私は一気に言い逃れの出来ない状況に追いつめられた。2間幅を保ったこの深い堀割には、三島道を見続けてきた私を黙らせる強烈な説得力があった。

これは本当に、私たちの敗北なのではないか。

「小国新道」として明治17年に開通した初代車道は、我々が従来それと考えていた「旧車道」とは別の道であって、開通から僅か10年ほどで廃止された**希代の失敗作**だったのか。

めちやくちや 「熱い」んすけど…。